

短歌

起 雲 選

(地) 林 静 子

はちらひて黙し、まゝに別れたる其夜の夢をくり返す身か

(人) 田 邊 春 洋

うらぶれや朝月淡き扉によりて牡丹崩る、音聞きにけり

鈴 村 仙 子

力なう幸にはぐれし譜をのぼせ緒琴淋しう春くれんとす

岡 野 艶 子

花によせて思ひをみだす若人に何を悟れのゆふ鐘かそも

田 中 三 舟

静なる石の眠りをさますべくちるやうららの花さくら花

平 岩 學 洋

別れても厚き情はとこしへに結びつたへん光りある世に

田 邊 孝

姫君が袖かみしめて忍び音に泣くともきかん春のあめ哉

鈴 村 花 子

彩羽伸す孔雀の舞の午すぎで牡丹くつる、村をさのには

心から己がのぞみを歎きて小さきおもひを語るひとなき

玉 尾 晶

ゆきすりに笑まひもらせし少女子の趣ありな春の夜の月

姫君の丸窓ちかう移されて春をおこるか八重やまざくら  
いそがしう小琴を走る春の譜と花ちり狂ふ人の世かそも

清 水 光 風

うらぶれのやせし身ゆるせ吉野山花の小蔭に一夜を許せ

中 川 龍

涙つゝる花の欄干夕かぜに雨ともならむくものかげ見る

飯 塚 曉 霞

水殿や夕日うらゝに花ゆれてよするさ、波匂ひあふる、

身は蝶と化り出て花にやすらひて九十の春の夢や結ばん

吉 野 絹 子

かくて世は頼みがたなや深見草真紅のおこり雨に崩れて

胸の扉はやみの思ひに閉されて花の光りに笑まむ術なく

中 村 鶴 聲

から鳥のながき彩羽に花ちりてはる闌にかぜめくう吹く

しばらくは世の榮あつめ春されば黄金高照る山吹のまど

大 西 益 子

春の窓を東風おとづる、朝明や京の傾りに梅のせて來し

簾の子の追分節に胸くるふ磯のわびぬに朽ち果てん身か

吉 川 紅 花

うれひては鐘冷かう身に沁みて花ちる陸にひとり千つむ

雲か將花かかすみのわが瞳かねをたよりに入るよしの山  
白鳩や愛のつばさに花ふくみなつかし人のかなたの國へ  
\* \* \* \* \*